

株式会社マルキン

宮城県牡鹿郡女川町

需要獲得
ものづくり

ギンザケ養殖のパイオニアとして業界を牽引 国際認証の取得により世界市場へ挑戦

同社は、現社長が1977年に国内で初めてギンザケ養殖の事業化に成功し出荷を行った丸欣鈴木商店を前身とする水産加工会社である。ギンザケの自社ブランド「銀王」を立ち上げ、展開している。40年以上にわたり業界のパイオニアとして地道な販路開拓に取り組み、ギンザケの普及に努めてきた同社は、当初より生産（養殖）から加工・販売までの一貫体制をとり、水産業の6次産業化を確立。現在ではギンザケのほか、牡蠣やホタテなど地元養殖海産物を中心に扱う。事業拡大に伴い、2007年に法人化した。

所在地 宮城県牡鹿郡女川町小乗2-2-5
電話/FAX 0225-50-2688 / 0225-50-2687
URL <https://www.kaki-marukin.com/>
代表者 代表取締役 鈴木 欣一郎

設立 2007年
資本金 300万円
従業員数 30人



ギンザケの養殖から加工・販売までの6次産業化を実現

同社はギンザケ養殖に加え、自社工場での加工、大手スーパー・飲食店チェーンへの直販や商社への卸販売といった生産～加工・販売まで一貫体制を構築しており、水産業の6次産業化を実現している。同社は養殖生簀から水揚げして同社加工場まで短時間で輸送するため、稚魚の段階から製品までのトレーサビリティの確立した品質管理体制が高いレベルで維持されているだけでなく、ギンザケの鮮度を落さずに加工処理でき、差別化につながっている。



ギンザケの養殖生簀

メイド・イン・ジャパンのサーモンで世界基準へ挑戦

世界的な水産資源の枯渇に伴い、自然環境に配慮し持続可能な養殖水産物の国際的エコラベルであるASC認証の重要性が高まっており、海外サーモン市場では、すでにASC認証が標準化している。同社でも、SDGsを推進する現代のニーズに応えるべく、水産エコラベル取得に向けた養殖漁業改善プロジェクトを2017年に立ちあげた。環境調査や現場作業の改善に取り組み、2020年3月にはMEL認証（日本版水産エコラベル認証）、そして同6月にはギンザケ養殖として国内初のASC認証を取得した。



自社ブランドギンザケ「銀王」

水産業の担い手を育成、新3K漁業のPRで地域漁業全体を活性化

同社は、女川町でのギンザケ養殖を地域の産業として将来に繋げていくという理念を掲げており、将来の担い手育成の観点から地元の若者を重点的に雇用している。また、後継者である常務取締役が、三陸沿岸の水産業の若手経営者らとともに、一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンを設立して、漁業を(K)カッコよくて、(K)稼げて、(K)革新的な「新3K」産業にすべく、漁業自体のPRや担い手の育成にも取り組む活動を展開している。行政や地元水産高校とも連携し、漁場見学や加工場でのインターンシップを通し就業へのきっかけづくりに取り組んでいる。



水産高校の漁場研修の様子

需要獲得

ものづくり